

児 童

事例

保育所における外国人児童の受け入れ及び、 外国人保護者に対する通訳等支援

聖母福祉会（静岡県） 〒436-0056 静岡県掛川市中央1-8-1 TEL 0537-24-0875

活動の概要

言葉や習慣、文化の異なる日本で外国の方が安心して、子育てをしながら働き生活できる環境を用意し、子どもを積極的に受け入れ支援していきます。

法人の概要

昭和25年キリスト教（カトリック）のパリ外国宣教会が、清水聖母保育園を開設、社会福祉活動の第一歩を踏み出しました。

昭和41年社会福祉法人の設立認可を受け初代理事長にアンリ・ジャシェ神父が就任しました。以後、天使の聖母宣教修道女会、聖ヨハネ会、聖母訪問会の協力を得て保育園と特別養護老人ホームを静岡県内に順次開設し、現在は8施設を運営しています。

- 経営施設数…8
- 法人全体の年間事業収入…1,513,571千円
- 主な経営施設…
 - 保育所 清水聖母保育園
昭和25年設立、定員200名
 - 保育所 掛川聖マリア保育園
昭和41年設立、定員150名
 - 保育所 藤枝聖マリア保育園
昭和43年設立、定員150名
 - 特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園
昭和44年設立、定員90名

実施施設の概要

- 施設名…掛川聖マリア保育園
- 施設種別…保育所、定員150名

施設の運営方針

カトリック精神に基き、保育に欠ける乳幼児を受託し、養護と教育が一体となった情緒の安定できる生活環境を用意し、自己を十分に発揮できるように留意して、豊かな人間性を持った子どもに育成します。

活動の内容

- 活動対象者…外国籍の園児とその保護者
- 活動の頻度…週6日（月～土）
- 年間延利用者数…平成15年171名
- 活動開始年…平成4年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

平成4年4月にブラジル国籍の幼児が入所した事に始まり、その頃から近隣企業の外国人労働者の雇用が多くなり、ブラジルやペルーから日本へ働きに来る外国人が増えてきました。

1. 地域ニーズへの対応

(2) 個別ニーズに対応した柔軟なサービス

家族全員の生活と本国への仕送りを含め、経済面での安定を求め、派遣会社を通じ企業で働く人がほとんどでした。

早急に子どもを預けられる所が必要となり、知人や勤め先から保育園を紹介されたり、知人の子が入所しているから安心という理由で入所を希望する人が多くなりました。

又、宗教心が厚く、隣接する教会に来る人も多く、カトリックの保育園という事でも希望者が増えてきました。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

ほとんどの保護者が派遣会社を通して早朝から夕方遅くまでの仕事に従事し、長時間の保育が必要です。その為に職員も時差出勤したり時間外職員をあて対応しています。

文化や生活習慣の異なる園児にとっては言葉もわからず乱暴になったり、集団生活になかなか馴染めない子もあります。一人一人に声をかけ、様々な欲求を適切に満たして情緒の安定を図る為に保育士の人数にもゆとりが必要となっています。保護者への通信は勤務先にFAXで知らせ通訳をお願いする事もありましたが毎日の子どもの様子や行事をより理解してもらう為にそれぞれの家庭に合わせてカタカナやローマ字で書いたり、時には人を介してポルトガル語にかえて知らせています。

■利用者の声、地域の反応

個々に温かく援助することにより、子ども達は情緒の安定と共に、自信をもって生活できるようになり親からも感謝されています。

日本での生活が経済的にも安定し、国へ帰っても仕事がなく治安も悪いから日本に永住したい、という家族もあります。又帰国を予定している家庭では子どもが日本の生活に慣れ、日本

語を覚えていく中で母国語を忘れてしまう事への不安を訴える人もいます。

外国籍の子がいるからという事で、他の保護者が入所を拒んだり、地域の方からの苦情等今までにはありません。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

当初はお互いに言葉が通じず距離を置いて様子を見ている面もあったが、園での生活の積み重ねや行事を通して他の親とのつながりもでき、園周辺の地域の人にも笑顔で挨拶が交えるようになってきました。

今後は、生活の為又は企業の要望によって延長保育時間以上まで仕事があり、二重保育をしている家庭への負担の軽減など保育時間の見直しや改善を考えていかななくてはなりません。